編集後記

本号は、ヨーロッパの教育研究者からの投稿論文を中心に編集した。編集者が 1997 年８月から８ヶ月間スウェーデンのリンショーピン大学に客員研究員として滞在して以来、研究交流を続けてきた研究者が主な執筆者である。現在、これらの英語で書かれた論文を研究室のメンバーで共同討議をふまえて順次日本語に翻訳している。この第３号には、その中から１つ（長谷川紀子翻訳担当）を掲載することができた。残りについても次号以降に掲載していく予定である。学部ゼミ（通称「遊びと労働の教育」ゼミ）の取り組みとして、今年４月２３日に「つくって遊ぼう、つくって学ぼう」という企画をはじめて実施した。その取り組みの報告については、子どもの遊びと手の労働研究会の機関誌２００６年７月号に掲載した（長谷川紀子「つくって遊ぼう、つくって学ぼう～光る泥団子作りの挑戦～」『子どもの遊びと手の労働』第 393 号、2006 年 7 月）。本研究室では、可能な限り実践的な取り組みからも学びながら、理論的な研究を進めていきたいと考えている。今年３月に津賀小学校を退職された松本達郎先生は、岡山県の小学校における技術教育の実践を長年にわたって取り組んでこられたが、そのまとめを本号に投稿していただいた。今年３月に卒業した川上圭君は、この松本先生の学校を数度訪問し、卒業論文を執筆した。松本先生には記して感謝申し上げたい。

2006 年 6 月 15 日

技術教育学研究室
横山悦生